

私たちは忘れない 御巣鷹山慰霊登山

私たち J R 東海労新幹線関西地本は、航空機輸送に携わる人達が集まる航空安全会議大阪支部が主催する御巣鷹山慰霊登山（5月26日～5月28日）に組合員・OB・家族などあわせて14名で参加してきました。

今から26年前の1985年（昭和60年）8月12日夕刻、日本航空123便は、羽田空港を離陸し伊丹空港に向け飛行中、機体に異常が発生し、操縦不能に陥り乗員による懸命の操作もむなしく、群馬県上野村の御巣鷹の尾根に墜落しました。死者521名（胎児1名含む）、生存者4名という大惨事となりました。私たちは、墜落事故現場である御巣鷹の尾根に登り、犠牲者の御霊を安らかにとの祈りを込めてたてられた昇魂の碑に献花し、ご冥福を祈りました。そして、その場において日本航空乗員組合の方から墜落事故の状況や原因などについて詳しく説明していただき、事故当時のボイスレコーダーを聞かせてもらいました。異常事態発生から墜落するまでの30分間にわたり、大空をさまよう機体のなかでの乗客の恐怖や、操縦不能の機体をなんとか立て直そうと最後まですさまじい闘いを続けた乗員のことを想像すると、怖かっただろうと本当に痛ましく、切ない思いが込みあげてきました。また、それぞれの遺体が発見された場所には、ご遺族の思いを込めた数々の墓標や祭壇を目のあたりにし、521名の尊い命が一瞬のうちに失われたこと、さらに犠牲になった方々の親族やその関係者を不幸のどん底に落とし込めた事故の悲惨さを痛感しました。

私たちは、もう二度とこんな悲しい苦しみを繰り返さないように肝に銘じ、決してこの事故を忘れる事なく交通機関で働く者として、安全を絶対を守ると決意し、実行することを誓いました。労働組合が問題点を把握し的確に指摘していくことが大切です。

現場から、おかしいことはおかしいという声を、みんなで上げていきましょう。

